

所属・資格 国文学科・教授

申請者氏名 竹下 義人

研究課題		上嶋鬼貫の研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	伊丹出身の上嶋鬼貫は、大阪・京都を中心に活躍した談林系俳人で、伊丹風と称される独自の俳風形成を担った人物として知られる。武士として出仕していた時期もあり、いわゆる職業俳人ではないが、元禄名家の一人として早くからその名の知られた存在であった。しかしその知名度に比して、肝心な作品研究は手薄の状態にあった。そこで本研究では、具体的な作品を対象に解釈・鑑賞を進め、鬼貫の俳諧史的・俳壇史的な位置づけを再考することで、鬼貫俳諧の特質や魅力について明らかにしていくことを目的とした。その手始めとして、現存する発句作品の整理・考証を進め、注釈作業に着手することにした。
	研究の結果	鬼貫の発句作品については荻野清編著『元禄名家句集』（創元社 昭和 29 年）を底本とし、掲載されている全発句のデータベースを作成した。データベースの構成については省略するが、底本の刊行自体が古いため、そこに漏れた句のほか新出句も可能な限り収集するように心掛け、現時点における鬼貫発句集の完全版をめざした。 つぎに、注釈作業に入るわけだが、その前に、略注の出版企画が持ち込まれことを受け、他の俳諧研究者とも協力しながら注釈作業に着手することになった。底本は前出の『元禄名家句集』とし、数度にわたる点検・打ち合わせを経て、年内には全句の現代語訳を終えることができた。全体は、凡例、句意、語釈、備考、語彙索引、初句索引、参考文献、年譜等々からなるもので、年明け以降は、注釈部分の校正を進めながら、索引の編集作業にあたり、3月上旬にはすべての作業を完了するにいった。
	研究の考察・反省	データベースの作成段階では、鬼貫の全句収録に努めたが、実際の注釈の対象としたのは、出版企画の事情により、荻野清編著『元禄名家句集』（創元社 昭和 29 年）収録分に限定されたものとなった。したがって、都合約 100 句ほどが注釈の対象外となり、今後の課題として残された。 注釈作業において校正に時間の多くを割かれることになり、鬼貫の作品分析から追究する予定だった俳諧観などの考察事項の詳細については次年度以降に持ち越す結果となった。 なお、まとまった出版物としての刊行時期については、最終の校正が進行中のため、現時点では未定だが、次年度早々には決着する見込みである。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所 研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>研究成果物 竹下義人、「一枚摺資料瞥見（二） 「狂歌チラシ」」、『語文』第 166 輯（日本大学国文学会 2020 年 3 月）、P. 43～P. 52。</p>	